

Take action for your Future

福井県立武生高等学校 SSH 研究推進部 No.13 R3.11.15(月)

1年探究進学科 秋の校外研修

10月23日(土)に探究進学科1年秋の校外研修として、福井県嶺南地域にある美浜町エネルギー環境教育体験館「きいばす」と福井県年縞博物館を訪れました。「きいばす」では館長をはじめスタッフの方から、エネルギーおよび環境に関する実習をしていただき、また、年縞博物館では館内に実物展示されている45mの年縞(長い年月をかけて積み上げられたしまの地層)を見学しました。

「きいばす」での生徒の様子

「電気を届ける仕組み」や「エネルギーを賢く使う」方法などを、実験や体験を交えて教えていただきました。環境問題が多く取り沙汰される中、生徒は真剣に考えながら研修に参加しました。



福井県年縞博物館での生徒の様子

年縞という福井が生んだ財産が、いかに貴重で稀有なものなのかを学びました。館内を回る際にはナビゲーターの方に詳しい説明をしていただき、生徒は興味津々で話を聞いていました。また、年縞の歴史的価値や、炭素同位体年代測定のことなど、地質学について深く学ぶことができました。



生徒の感想および学習した内容

- ・「きいばす」では現在私達が使っている電化製品などの節電に関してや、これからは再生可能エネルギーが世界中で重要になってくることなど電気のこと幅広く学ぶことができた。
- ・今、地球温暖化防止の中心的対策として「電化」していることがわかった。電化は再生可能エネルギー、VRE 電源を使うことがクリーンであるということがわかった。
- ・研修に行くまでは、地球環境に悪い火力発電を止め全部風力発電や水力発電などに切り替えればいいのと思っていたが、費用や土地の問題、また同時同量という電気の需要量と供給量を一致させないといけないという原則があると分かりました。
- ・年縞博物館では世界唯一の水月湖の年縞について学んだ。水月湖に年縞ができる要因は三方断層によって水月湖の水深が深いこと、風によって水底に酸素が届かず生き物が生きられないことだ。
- ・45mある細かい年縞が肉眼で数えられ、それにより、世界中の様々なものの年代が分かるようになったことは、研究を進める上で素晴らしい成果なのだと思う。水月湖が世界で認められていることを知り感動した。